

入選

ぼくはかみの毛を切らない

徳島県 大松小学校

5年 三木絆叶星

ぼくは、小学校入学前から、かみの毛をのばしていた。ロングヘアが好きだからだ。

小学1年生のころ、母から初めて「ヘアドネーション」という言葉を聞いた。ヘアドネーションとは、小児がん、先天性のだつ毛しょう、不りよのじこなどで頭はつを失った子どものために、寄付されたかみの毛でウィッグを作り、無しょうでいきょうする活動だ。

母からヘアドネーションについて聞いたぼくは、かみの毛を必要としている子たちの力になりたいと思い、ヘアドネーションをするために、2年半ほどかみの毛をのばした。それを見た周りの人々には、「なんで男の子なのに、そんなにかみの毛長いん。」と言われることもあった。でも、ぼくはそのたびに、「かみの毛の長さに性別は関係ないし、今自分がやりたいことをやろう」と思っていた。だから、そんな言葉は気にしなかった。

そして、「かみの毛をのばして、ヘアドネーションするんよ。ぼくのかみの毛で、病気の子たちを笑顔にしたいんよ。」と、かみの毛をのばしていることを不思議がっている人や、友達に伝えた。すると、ぼくの行動をみとめてくれたり、少しずつ理解してくれたりするようになった。ぼくの思いがみんなに伝わって、本当にうれしかった。

でも、正直に言うと、かみの毛を長くのばすのは大変だった。夏は暑いし、かみの毛をあらうのも時間がかかり、とちゅうで「もう切ってしまうおうか」と思ったこともある。それでも、のばし続けたのは、「ぼくのかみの毛で、笑顔になってくれる子がいるかもしれない」「もし、ぼくがここであきらめたら、その笑顔がなくなってしまうかもしれない」という思いが大きかったからだ。

小学3年生のころには、ぼくのかみの毛は、のばし始めてから30センチほどのびていた。美容室で、ヘアドネーション用に、かみの毛をいくつかの束に分けて、ゴムで結び、20センチ以上切った。急にかみの毛が短くなって、なんだか変な感じがしたが、だれかの役に立てると思うとうれしかった。

いざ、寄付しようとする、寄付団体が、15センチ以上31センチ未満のかみの毛の受付を休止していて、送ることができなかった。寄付できないということを知り、とても悲しかった。結局ぼくのかみの毛は、今も家に保管している。しかし、最近、20センチ以上で寄付できる団体があることが分かり、その団体をお願いしようと考えている。

ぼくは、ヘアドネーションを通して「だれにでも、だれかを笑顔にするためにできることがある」のではないかと思った。これからも、そのとき自分ができることをせいっぱいしようと思う。そして、ぼくはまた、かみの毛を切らない。